

紅緑偏「滑稽俳句集」を読み解く 14

2010.07.19 (聞き手 高橋素子)

高橋 > この七月十二日の早朝、松山地方気象台始まって以来と言われる豪雨の土砂崩れにより、思いも寄らない愚陀佛庵の倒壊が・・・

夏目漱石・正岡子規ゆかりの建物だけに、全国の俳人は本当にびっくり残念に思われたと事と思います。

特に全国の俳句結社に「愚陀佛庵での句会」を呼びかけられてご開催、また自らも毎週一回の観光客を交えての「愚陀佛庵句会・松風会」をこの一年開催されてご好評を得ていらっしゃる会長のご無念さはお察しするに余りあるものと本当に惜しまれます。

会長 > 愚陀佛庵の文学史に於ける価値は災害に遭っても色褪せることはないのですが、現場に立って見るとシンボルが消えてしまったということで喪失感がひしと迫ってくるものです。

それは、一度でも愚陀佛庵をお訪ね下さった方はなおさらと思います。と同時に、災害から立ち直って、かつて子規・漱石・松風会が築いた歴史を引き継いでゆくことの大切さを思いました。

高橋 > こんな時に不謹慎かも知りませんが、平家物語の冒頭にも詠われている様にこの世のものは全ていつか・・・。

それに会長が倒壊直後のコメントで述べられていた様に観光客・俳人の方々の人命が無事であった事を何よりの不幸中の幸いとして、一日も早い愚陀佛庵の再建を願いながら、いつもの学習始めさせて戴きますね。

会長 > ご心配ありがとうございます。
滑稽俳句協会会員の皆様からも多々、激励のお便りを
いただきました。
ここで厚く御礼を申し上げます。

高橋 > それでは、本日は前回に続き夏の部の「辞令」の中の
季語「暑さ」、也有のこの句から始めさせて戴きま
す。ご説明下さいね。

☆ **大名は日當を通る暑さ哉** 也有

会長 > 大名だから 片蔭を行くわけには行かぬ。そこが可笑
しいですね。

そういえば一茶にも
☆ **ずぶぬれの名を見る 炬燵かな**
という意地の悪い句があります

高橋 > そう言えば暑さの中を行くひと（おそらく女性？）を
御覧になって、詠まれた会長の句がありましたね。勿
論、師の場合は同情というか相手を気遣うこれとは反
対の気持が句から伺われますが・・・（笑い）

★ **片陰を行けばいいのにあのひとは**

会長 > 男女のいずれかは読者にお任せしたいと思いますが、
暑さに強い屈強な男性としたほうが面白い。目的地
に着く頃には、かなりくたびれている。

高橋 > そうですか？
私には女性を気遣う作句者のはらはらとする気持ちが面白くて・・・（笑う）
続く次の「暑さ」の三句は前回の「許六のうどんや」や「也有のうその旅した能因の句」同様、 会長が「紅緑の滑稽俳句論」と位置付けられた「自序」の中に出て来ましたね。

☆ 禮いふて鯛は捨てたる暑さ哉 也有
☆ 我宿は下手の建たる暑さ哉 田福
☆ 暑き日に面で手習した子哉 一茶

これらの句は「暑さ」をテーマに元禄（許六）享保（也有）は未だ理屈を脱することは出来ず、

☆ 天明（田福）に至って稍稍一転化し、文化（一茶）に至って全く理屈を離れた事が理解出来る具体例の句として、時代別に比較してあるのは面白く分りやすいと会長がすでに御解説下さっていますね。
（紅緑編「滑稽俳句集」を読み解くⅠ参照）

会長 > この三句では「面で手習い」が写生句ですね。
汗と墨で顔がドロドロになっている。「鯛は捨てた」は暑さの結果ということで説明的、ですね。
下手が建てたる・・・はやはり、暑さゆえということですね。
一茶の場合は面で手習い・・・として読者に「？」というなぞかけをしている。そこがまたよろしい。

高橋 > 成る程そうですね。
続けて次の「暑さ」の句の数々ご説明下さいね。
どれも「感じたままを描く」「会長の滑稽俳句術」の一方法の様にも思えますが・・・

☆ 丸裸これほど暑きことはなし 大江丸
☆ 世の馬鹿が羽織着るなり此暑 暮村
☆ 釈迦見ても国の暑さは知られけり 紫亭

会長 > 大江丸は 自身が裸になって 暑いなあ 江戸幕府測候所が観測を始めて以来の記録的暑さだと・・暮村は羽織を着るのは馬鹿・だと他を批判して川柳的ではありませんね。・紫亭の句は 裸同然の釈迦如来の像を見てつくったんでしょう

高橋 > 会長は「暑さ」ではありませんが、「薄暑」の句を沢山お詠みになっいらっしゃいますね。
次の句もそうですね。

★ トタン屋根光らせ薄暑製造所 健
★ 薄暑と気付くだらだら坂のぼり 健

会長 「暑さ」は 「寒さ」と同様に単純な季節感としてしか描けない辛さがありますが 薄暑だと曖昧な感じが俳句的ですな。

高橋 > 成る程！そう言うことなのですか？
次の季語は「涼」ですよ。

☆ 涼しさに歩行て見れば暑さ哉 専吟
☆ 井戸堀は屋根簷よりも涼しかり 紅緑

これらの句も「感じたままを描いた」句の様にも・・
ご説明下さいね。

会長 > 専吟の作品は 涼・・と思いきやという発見がありますね。体験ですね 紅緑の句は 推定でしょう。(実際は涼風を浴びて屋根の上にいる人の方が涼しいかも知れぬ)いずれもなるほどと思わせる。

高橋 > 「涼」は夏、「新涼」は秋の季語なのですね。
会長は「新涼」の句は多くお作りですが、夏の「涼」の句を見付けることが・・・
そこで本日は趣向を少し変えて、滑稽俳句の達人の会長に誰もが知る名添削ぶりを、私の拙い句を人身御供に差し出してご披露戴きたいと思います。

お話が横道にそれますが、昨年夏、初めて訪れたローマの地。歩けば教会に遺跡に突き当たり、踏めば地下の墓の上。そこら辺りいっぱい神々の像と噴水とそれに骸骨さえ飾る寺も。現世もかの世も一帯となり、もしかしたらあの世があるのかも等と考えてしまいました・・・

*** 納涼気分骸骨寺の客となる**
*** コロセオは殺せおのこよ月涼し**

一句目、やはり私は無神論者？
二句目季語が合っている様な取って付けた様な・・・夏の季語「涼」を用いてご添削下さいね

会長 > * 納涼気分骸骨寺の客となる・・・
気分は不要でしょう。客も不要ですね。
▼ 納涼や此処はローマの骸骨寺

*** コロセオは殺せおのこよ月涼し**
▼ コロセオに殺せおらぶや月涼し

高橋 > 有難うございます。思った通り素敵です。一句目は無駄を省き、代わりにローマと言う地名を！
私も地名を入れたかったのですが、何しろ十七音字なので・・・

二句目「おらぶ」が素敵ですね。
方言かと思ってましたら、万葉集にも「天（あめ）仰ぎさけびおらび」と使われている様なちゃんとした言葉なのですね。

二句目作句者と過去の観覧者の動作がだぶって目に浮かび、しかも中七切れ・・・
季語も生きてきました。
う～ん！素晴らしい！
評判通り流石です。
師に向かって生意気な・・・ごめんなさい。（笑い）

次の季語は「土用」一茶の句ですよ。
☆ **この雨は天から土用見舞かな** 一茶

先日の師のメルマガ（2010.07.06）で「土用とは各季節の終わりの18日間を言う。
春夏秋冬あるのだが、今はなぜか土用というと夏だけとなってしまった。」とご説明戴きましたね。

会長 > やはり 土用波とか 土用鰻というような強い季語がありますから、夏の土用という感じになりますね。

高橋 > ★ **土用浪飛沫を空に置き去りに** 健
★ **まず音で威嚇してくる土用波** 健

会長の「土用」の句を現代句の代表句として比較引用させて戴きましたが、作句された時の状況・ひらめき等お話戴ければと思います。

会長 > 土用波 は 視覚聴覚 とともに 印象的なのですが土用波そのものに存在感があるので 作りにくいのです。どうしても説明になりやすい。とりあわせの方が作りやすいのです。

★ **哀しみの寄せてはかへず土用波**

これは 私の同級生(女性)が母親を亡くしたときに贈りました。

高橋 > 「時令」の最後の季語は「夏雑」の句ですよ。
二句ありますね。

☆ 口癖や夏は坊主になりたいと 流志

☆ 冷水に煎餅二枚樗良が夏 樗良

会長 > 坊主になりたい 丸坊主になれば涼しいということでしょうね。
樗良の暑さ対策ですか エアコンのない時代だからこそその句ですから時代を感じますね。

高橋 > 会長の夏雑の句は、いろいろあるとは思いますが、少し変わった擬人句を勝手に選ばせて戴いて・・・

★ 花莫座は夏の季語よと花筵 健

こちらの句の方が・・・と言われる句がございましたらご紹介下さいね。

会長 > ★ 夏痩せて嫌ひなものを食はせらる 健
どこかで聞いたような句ですが

★ 襖四枚どこかへ隠し夏座敷 健

なんて句をつくった覚えがあります。

高橋 > それでは、会長も
★ 青田風青田抑へつつわたる
と詠まれていらっしゃる様ですが、夏の「地理」の部「青田」に行かせて戴きますね。

☆ 延るほど鷺は短き青田かな 也有

☆ 畑に烏青田に鷺と定まりぬ 句三昧

御説明戴けますか？

会長 > ☆延るほど鷺は短き青田かな 也有

「延るほど」は青田の稲のことです。
草丈が伸びると鷺の脚が隠れてしまいますからね

☆ 畑に烏青田に鷺と定まりぬ 句三昧

昔は畑の周囲には木が植えられていました。
区画の目安にもなり、なにか干したりですね
烏は畑の虫をねらっているんです 一方鷺は青田にいますね 句はそんな風に相場が決まっている・・・といっているのです。

高橋 > それでは、本日の最後の季語「清水」の句に参ります。御説明下さいね。

☆ 母馬が番して吞す清水哉 一茶
☆ 清水ありや婆子曰く茶を喫し去れ 子規
☆ 聞いて居れば清水が咽ぶやれ咽ぶ 虚子

会長 > ☆ 母馬が番して吞す清水哉 一茶

一茶の母恋の句ですね。幼くした母を失った一茶は母子の睦まじい姿を羨んだのです。

☆ 清水ありや婆子曰く茶を喫し去れ 子規

茶店の婆さんでしょうか。茶を飲んでゆきなさい ということですね。自慢の水だろう、清水があるに違いない と子規は思ったのです。

間歇泉でしょうか。音を楽しんでいるんですね

高橋 > 会長の句集をいろいろ捲って見せて戴いたのですが、
季語の「清水」の句が見当たらないで・・・本日の最後
の締め括りに即興で「清水」の滑稽句を一句お願いし
ていいですか？

会長 > **★夏瘦せて清水次郎長啖呵切る**
なんていかがですか。

★その下は紅葉(こうよう)清水(きよみず)の舞台

高橋 > ふふふっ！ 流石会長！
最後まで滑稽！
「清水」がいずれも季語にならないところが残念・・・
いえいえ、そこがミソですね。（笑い）

本日もいろいろ為になる面白い御解説有難うございま
した。愚陀佛庵の一日も早い再建と愚陀佛庵句会の
益々のご発展を期待しお祈りしながら、本日はここま
でとさせて戴きます。

会長 > また来月もよろしく お願いしますよ。

(2010年8月号)
